

## 研究に関する情報公開について

研究課題	術後長期経過を追跡した手根管症候群患者における SWT と CTSI の関連について
研究機関の名称	医療法人社団友志会 石橋総合病院リハビリテーション科、整形外科
研究責任者	海老原 佑樹
研究対象者	2016 年 4 月から 2025 年 8 月まで当院で手根管症候群（以下、CTS）に対し鏡視下手根管開放術を行い、術前から術後 1 年まで経過観察可能である患者様を対象にします。
研究の目的・意義	<p>Semmes-Weinstein monofilament test（以下SWT）は手根管症候群を始めとする絞扼性末梢神経障害における代表的評価法<sup>1)</sup>です。当院では2016年4月からの診療報酬の改定に伴い、末梢神経障害患者に対する精密知覚機能検査（以下感覚検査）の算定が可能となったことを受け、主にCTSや肘部管症候群の患者様に対し、術前から術後1年までの期間、SWテストや痺れの評価、筋力評価など評価を行い術後1年までフォローアップを続けています。SWテストについては、結果を点数化し、33点を上限とし減少すればするほど正常値に近づき、11点以下を日常生活での不自由さがほぼ消失する「基準値」として採用しています。</p> <p>CTS手術後に定量的な感覚機能検査であるSWテストや、主観的な評価であるCTSI-JSSHの改善した報告は散見されています。我々はこれまで、SWTスコアを用いて鏡視下手根管開放術前後における患側手の感覚機能の変化を経時的に追跡してきましたが、主観的な症状や機能の関連性については、渉猟した限りでは先行研究は見当たりませんでした。今回はこの点に着目し、CTS患者が鏡視下手術前後において定量的な評価と主観的な評価の関連性について追跡調査して検討することとしました。</p>
研究方法	2016 年 4 月から 2025 年 8 月まで当院で手根管症候群に対し鏡視下手根管開放術を行い、術前から術後 1 年まで経過観察可能である患者様を対象とします。診療録から情報を抽出し統計解析を行います。本研究では患者様から新たな情報の提供は頂きません。
研究期間	石橋総合病院倫理委員会の承認を受けてから 2026 年 3 月末まで。
研究に使用する情報	患者様の診療録より以下の情報を使用します。 術前、術後 1 週、術後 1 ヶ月、3 ヶ月、6 ヶ月、1 年時点における SWT スコア、年齢、性別。
研究に関する情報公開の方法	対象の方でご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の資料（学会に提出する演題抄録、発表演題のデータ）を研究責任者と対面で閲覧することが出来ますので、お申し出ください。
個人情報の取り扱い	診療録から抽出する情報は、個人が特定できないように、研究責任者が病院 ID、氏名、生年月日の情報を削除し、個人の特定できる情報を新たな符合に置き換えた上で研究に使用します。データは研究責任者がリハビリテーション部門内で厳重に保管します。新たな符合と個人を特定できる対応表を同様に厳重に保管

## 研究に関する情報公開について

	します。また、研究成果は、個人を特定できないようにして学会発表や論文などで報告します。
研究組織名称	医療法人社団友志会石橋総合病院リハビリテーション科 海老原 佑樹, 清永 健治 (研究責任者)
問い合わせ先	<p>【研究責任者】</p> <p>医療法人社団友志会 石橋総合病院リハビリテーション科 海老原 佑樹 〒329-0596 栃木県下野市下古山1-15-4 電話：0285-53-1134</p>